

令和7年度消防団長等幹部現地研修を実施しました

令和7年度消防団長等幹部現地を7月3日（木）～4日（金）に48名のご参加の下、実施いたしました。

1日目の視察先は、実大三次元振動破壊実験施設（愛称 E-ディフェンス）で、実験棟や震動台など施設内の見学および映像学習を行いました。当実験施設の主要部分は、実際の地震と同じ複雑な三次元の揺れを作り出せる15m×20mの振動台です。その上に最大1200tの構造物を乗せ、1995年兵庫県南部地震や2011年東北司法太平洋沖地震の地震を再現できる施設となっています。

その後、宿泊先の会議室で、消防団長以下消防団関係者を対象に、「各団で実施しているまたは検討している各種訓練について」と「団員の確保対策について」をテーマに、4班に分かれてグループ討議を行っていただきました。この試みは当該研修が始まって以来初のもので、県内消防団幹部が集まる機会を活用し、それぞれの団での課題や問題点などを出し合い、今後の消防団活動で活かしていただく事が目的です。今後は消防団幹部のみではなく消防吏員、市町職員も参加し、様々なテーマで意見交換の場になればと思います。

2日目は野島断層 北淡震災記念公園で視察研修を行いました。

この施設は、国指定の天然記念物野島断層をそのまま屋内に保存されており、破壊された道路、生け垣のずれや地割れなど断層による様々な地形の変化を見学できます。メモリアルハウスでは地震断層が横切る民家を保存し、震災当時の建物の様子が公開されており、震災体験館では、震災の記録や映像、VRを使用した揺れの体験が出来ます。セミナーハウスでは、館長による震災の語りべの講話をお聞かせいただき、皆様熱心に聞き入っておられました。

暑い中ではございましたが、2日間大変お疲れさまでした。





